

風能

柳多留

四編

~9
1147
4



十

4
特 9 門へ
1147 冊
4 卷



びししのきり冠羽の撰り子若孫
万の合ふ名と時り一享保の以収付か
てき依りゆふのさのちりしことせしと撰
しりり江府をくく細くとせれと
好く通ぬりき方の白の貝と集り今ふ
その余洲津りぬるふ家屠のくしめ
液を新堀沼の考り川渡り方の合後し
あつらひらるる記ふ高世のこといといと記と
しりり分給と新弁りしむ武かをり

或は或方の白らけの事し考とを
如くやきん如くやいんよのくを肆
早蓮堂のや〜 龍河押持のふ冊と扇蔭
二扇二扇と如く〜 四扇といふ事と
乞ふはうの片を其の勝板如と括ひ兼
二二の扇〜と如く〜 好く如く和とそは
蓮林を以て油下境是陵新地



をう張ひと藤子の光〜と〜と
奥のちん本海〜のさ〜思〜と〜
とあやふと〜の切〜中〜何
〜と〜と〜と〜と〜と〜と
*如端〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と
枚も金と〜と〜と〜と〜と
おせの笑と〜と〜と〜と〜と
平産の如く〜と〜と〜と〜と

へんむすむすを尋ふて新くととてふらふ
 大強くさすかにさくしあかへあふ
 物くくくさるるのよひのもあへあふ
 路^りより^り家^はせざふかへもくくく
 以又の事とて大強くと新と見せ
 けがれむかひのさくし見せとて
 海りんとてあかへそのけさる
 下せらるれあかへさくしあへあふ
 下花とられさへ鹿とてあかへ

小侍せらの申とて強くとあかへ
 へんむすむすと下せらるあかへ
 へんむすむすと下せらるあかへ
 葉を散れとて比とてあかへ
 へんむすむすと見せとて強くとあかへ
 へんむすむすのさくしあかへ
 へんむすむすのさくしあかへ
 御のさくしあかへさくしあかへ
 中むす強と見せとてあかへ

了りおこしをいひて海にのりて
その響りおこしをいひて海にのりて
はなはたおこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて

○×

見せもせしむるまにふたふたとして海
角田川をいひて海にのりて
はなはたの知れし者めゆりて入
大いなるおこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて
おこしをいひて海にのりて

跡地さかのの藤くしよ家のえくらり
白杯とじしよらうだおえき〜
一武書を婦もよことおこ思る
おとぐらの飛く〜してた〜とら
汐巻くきゆ〜おくるさの〜おづま
× ちのハ毛虫と巻く〜ひのひ
庭の伽白く〜てお〜ま
美し〜流人ス〜
海老ふらるの〜の〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜

此後の事には、
るに、
と、
中、
と、
お、

考、
此、
の、
大、
桶、
物、
月、
お、
に、

あ茶屋のはじめにさくらいさげれん
ふところらも見附く外らくワカガ知れ
師ごころとあし〜はなごらの鏡とる
りら〜の事て結と〜らごら〜
居つ〜ふあ〜はなごの〜何ゆ
娘の〜あちちらび〜祝とえり〜
ああがおあ〜らんす〜海せ〜
次の間〜ち〜らん〜す〜新地人
治〜あ〜道下で〜あ〜らん〜の〜の
あは〜祝〜あ〜の〜時〜す〜ら〜あ〜
あ〜らん〜十日〜あ〜と〜あ〜
〜あ〜す〜の〜あ〜の〜あ〜
川〜あ〜あ〜らん〜の〜あ〜は〜あ〜
ち〜あ〜す〜あ〜で〜あ〜あ〜あ〜
あ〜の〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜は〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

と一冊の湯田中ぬ田義人ぬりて
十二と一とむくまの年にてり
さいふをいへりてりてりてり
いかにのま代出放てもりてり
妙房ハ移りてりてりてり
あつきのあつきのいへりてり
封一紙もいへりてりてり
年ウチれかきもあつきのいへり
おぼくもいへりてりてり
はるに神とあつきのいへり
大本おぼくもいへりてり
音の物屋一おぼくもいへり
屋のいへりてりてり
月あつきのいへりてり
大と十日せりてりてり
京廿日せりてりてり
ちりてりてりてり
とせりてりてり

うきうきーの演ぐまひすり二女笑
舞の下もきく世席の由様つる
柳人いじすこーとんとらかんす
山登のまゝいーかびであちさつ中
後家の休くりで田すりて酒との
中のみすいーのいーくちんころ
さーの茶とまゝくまのちまをん
さうまぐくまぐくくく唐をー
書きたるいーも男と海くは
あはせのいー目くちらりつらん
りーのいーのいーかゝいーいー
ゆくとかーこのま舞あ
まゝいーのいーと興くはれてお
とせんと大でまゝとあつるほ
高下のいー夜も笑とてくくく
湯攻ると思はせてあつるいー
母あやのいーんあつるいーあ
くくまを採るかーいーあつるいー

和歌のうゑも一十七巻のうゑも一
ぬりまらぬしうゑのうゑも一
新改のうゑも一茶のうゑも一
うゑも一紅毛のうゑも一
神楽のうゑも一
湯殿のうゑも一
うゑも一
うゑも一
うゑも一
うゑも一

志んぞのうゑも一
田舎乳母のうゑも一
大縄のうゑも一
お茶のうゑも一
大節のうゑも一
大くぢのうゑも一
お中納言のうゑも一
お茶のうゑも一
お茶のうゑも一
お茶のうゑも一

松竹梅も山も海もあつた
うしろのまふこゝの計り
福ら首のぶつちり人喜
さしつゝのし書つゝこれ
あつたまふこゝせらへし
西へあつたまふこゝの
まふこゝの二つと鹿を
まふこゝと神田の大
ほつちつゝあつたまふ

とむらうんがなぐ之祈
傘でび見の中へと
茶の余りかげのうら
し見ももずんとあつた
八洲由糸をれつと牛と
むらつちと鹿とむら
すつちとあつたまふ
さつちとあつたまふ
さつちとあつたまふ

家ウケハヒこの田舎と云せては
師匠さへもしとて別へて
床へ入るは店をいへておつては
ちかぢのまゝ——粒をほどくまゝ
おちおちおちおち——はちて
下山がえは——の成倍のちかぢ
合時がけりまゝかおらまゝに
い——い——い——い——い——い——
お父さんといひ指針まゝ

を解る雛もまゝいひらね
おぢいおぢい——おぢい——
ある——ある——い——い——
あや——あや——い——い——
雛店とていへ——い——い——
ま——ま——い——い——
い——い——い——い——
い——い——い——い——
い——い——い——い——

柳永填へるを、このかたて
大曲一、先引ケ、
後承の義に、
船政の、
過ぎで、
う、
と、
是、
た、

藤、
そ、
み、
命、
年、
お、
は、
は、
日、
な、

居りしものじいしんからせう
飛渡りし売やと子とをせう
十人物見て居る故と云ふ
江戸中と教へりし好く
業様へさしめし人の人
うさだこの大いとし
かゝるがとつるし娘初
とこちんの糸の切し
とんすりしんじのむと
さしんはあよおと地る
は勅使と大神さぬ馬士
年始むるがとえ家
とつがしつとつとつと
角田川とつとつとつと
若くはつとつとつとつ
年のつとつとつとつと
あつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつと

さしんはあよおと地る
は勅使と大神さぬ馬士
年始むるがとえ家
とつがしつとつとつと
角田川とつとつとつと
若くはつとつとつとつ
年のつとつとつとつと
あつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつと

らぬ山をふかすに
海よりまきをかき
大それたにうほ
ちりらんでお綴
お一層いさく礼
さめりじき人
此をゆけお大
風名一いさく
杖のへび

若布お売買
せきお泰先
八又ハこそと
かきぬひの
若きるゆめ
引くすふま
み辰の美男
米帯で見
おのぬも

葉巻糸のほしーし合とーし
七折千ちりほく四が娘とーし
サ目ろし女であらうけちん白ー
中くーいよもんかきーふまらん
伏丹ノ毒のゆゑのまのまの
の記母書であらうーしこがな
舟登りであらうとほがくうら
時系がら友目のちカハ鹿カカ
それーしでいせーしあつたあつたの

玄園書きたびのちく候者とーし
とーしごうとせうととくが子持
流毒が何とほがくうらとーし
あはれとらでーしとけとーし
あーしの中の白あつたら宛り
あもかひお里子とくす船ーし
あつとーし見くが田美の城及く
あつとーしと極くあつたあつた
あつとーしあつたあつたあつた
あつとーしあつたあつたあつた

あつてはのたひからして西のあつて
園中の目おのりしるいふく
は、玄園と淋し出る。可醫し
灸すく先の血と血をひらき
かんのしるこせはくしる事さでいふ
うはさしてさすめはく離と
室やくしるくしるさるがひひ
むうしるくしる身しのゆい
はとねんしるくしるしるしる

あつてはのたひからして西のあつて
園中の目おのりしるいふく
は、玄園と淋し出る。可醫し
灸すく先の血と血をひらき
かんのしるこせはくしる事さでいふ
うはさしてさすめはく離と
室やくしるくしるさるがひひ
むうしるくしる身しのゆい
はとねんしるくしるしるしる

香らしき下巾着をさかして
いそがし茶屋あがりて
産物のつとめくわりの
おのどろしきんさとの
まぢの服をきよく
厚んが目かきこ
月夜にふゆを
同、系すての
成者

おのどろしきんさとの
まぢの服をきよく
厚んが目かきこ
月夜にふゆを
同、系すての
成者

枕のむすかきじうひの馬しはあ
能く多む世難て細かぬとての
仲深く又あやうしにまぢりし
あや梳ぐとてうしに一人あ
しつれぎうでたいこかあ
中着の海づりかぬくも
餅のあふ合海づり紙性
娘のうけ姑のしん死つて
おれもあやうしに

おれもあやうしに
しつれぎうでたいこかあ
中着の海づりかぬくも
餅のあふ合海づり紙性
娘のうけ姑のしん死つて
おれもあやうしに

宗のちいひつゝまにたがし流し
馬士の名とあやの古柳馬の知れ
ふんぐの漢英いじすあぢあし
あささうまぢいしんこにせせしごせし
級有とていま田がしんくちぢい
初高しあぢいさあぢいあぢい
四日圓ハ乞合うくをる日なご
山がハあつてもるがさかじんぢり
おれともけあぢいハ大まら

流のあぢいしんくちぢいあぢい
一家中あぢいのおいぢい
あぢいぢいで見らのが馬のせう
あぢいぢいぢいぢいぢいぢい
紫ら石のくぢいぢいぢい
あぢいぢいで海をりさすらあぢい
あぢいぢいぢいぢいぢいぢい
あぢいぢいぢいぢいぢいぢい
あぢいぢいぢいぢいぢいぢい

くゞくゞやうやうの夏ひくゞくゞくゞ
かゞくゞの折つていぢぢも鹿つゞ
因のりりあんであゝいろは茶屋
始まうの夏ひくゞくゞくゞくゞ
根とゞくゞくゞくゞくゞくゞくゞ
海の中のかゞくゞくゞくゞくゞくゞ
二つ三つあゝくゞくゞくゞくゞくゞ
くゞくゞのりりくゞくゞくゞくゞくゞ
林にお堂目おかゞくゞくゞくゞくゞ

里わくゞくゞくゞくゞくゞくゞ
舟を山大隈あゝくゞくゞくゞくゞ
初の雛ていぢぢも折さくゞくゞくゞ
汎漣不系のかゝ折るくゞくゞくゞ
くゞくゞくゞくゞくゞくゞくゞくゞ
能ひぢくゞくゞくゞくゞくゞくゞ
のりりくゞくゞくゞくゞくゞくゞ
順の舞汎くゞくゞくゞくゞくゞ
ぢんぢんかゞくゞくゞくゞくゞくゞ

了しち釣りおふもふらひ
そんよのまじくちあつてつらがり
名月お月ほの白とちこし
湯浴うくおしこもほくちり
思ふぢぢまふぢぢぢぢぢぢ
そしぢ入ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
あつてんぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まがしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
菰入ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

若死ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
天八ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
あつて店一人ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
里ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
白ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
仲人ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
角田ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

代書くニヤん海と海といふ傍く
巻がくふつ山く妙房も山崎
山崎がよふと御着がぶり
つり
つりの里くかふるは乳母の海んが海れ
裕とくくく海んくかぶり
格白くくくんて出るく杖とが
廿のやんくくくくがん
いづるくくくくく海とくく見せ
首くくくくくくくくく

白くくくくくく根津の里
妙房くくくくくくくく
伝くくくくくくくく
跡目小帆とくくくくく
園くくくくくくくく
茶餅の使くくくくく
牛餅ハ七書おくれくくく
下れくくくくくくく
くくくくくくくく

地白うららら〜娘と〜
あまのこらんまの〜かひ〜
此身遊せんぞと〜
せんぐくちちと〜
大一座先陳すが〜
此身〜
病人も歌と出〜
万葉集も〜
根と〜

く〜
あ〜
反違ハ物景の子で〜
赤がらるおせ〜
先、敏の代ハ〜
黒〜
は〜
葉〜

